

平成 23 年 1 月 19 日

長岡京跡右京第 1016 次調査（伊賀寺遺跡）

発掘調査成果 関係者説明会資料

財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

調査地 長岡京市下海印寺下内田 14-1 番地
調査主体 長岡京市教育委員会
調査機関 財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
調査面積 112m²
調査期間 平成 22 年 12 月 13 日～平成 23 年 2 月 10 日（予定）

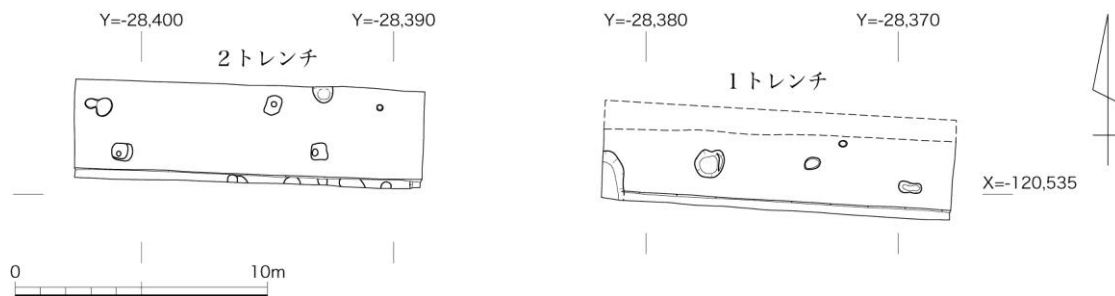
はじめに

当地は長岡京跡右京八条三坊十六町にあたるとともに、縄文時代・古墳時代・奈良～江戸時代の集落跡である伊賀寺遺跡にもあたるところです。

最近の調査では、奈良時代から長岡京期とみられる掘立柱建物や溝跡、古墳時代の竪穴住居、弥生時代の竪穴住居、縄文時代中期・後期の集落跡などが相次いで発見され、特に縄文時代集落に関しては、石囲い炉を設置した竪穴住居（中期）や火葬骨を埋納した墓跡（後期）が発見されるなど全国的に注目されています。

そこで長岡京市教育委員会では、長岡京跡の南西部での実態と縄文時代集落の広がり进行を明らかにするため、昨年度から国庫補助事業による調査を開始し、今回は二回目の調査となります。現地調査は財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが委託を受けて実施しています。

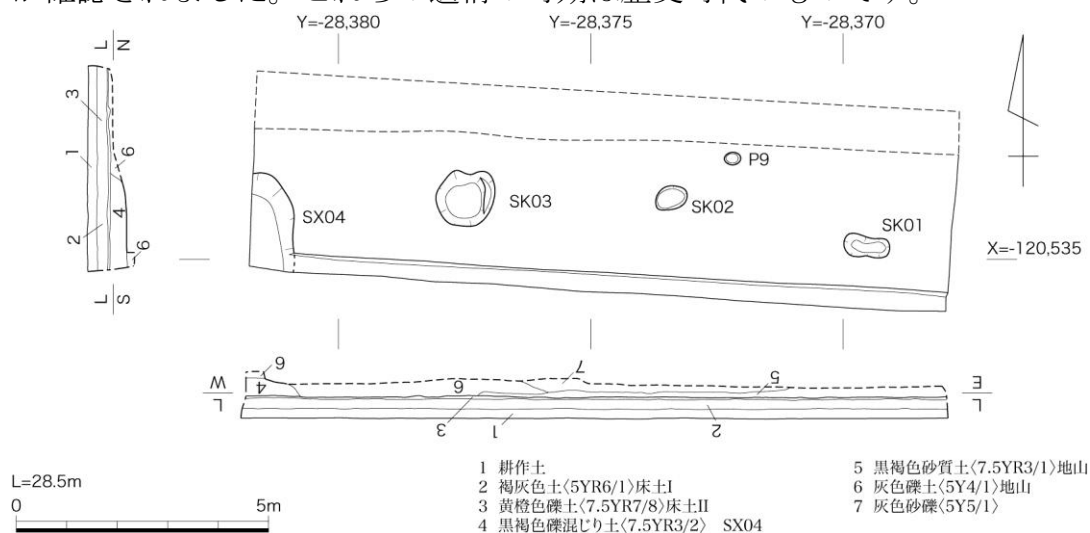
調査の概要



今年度の調査は、4m×14mの調査区（トレンチ）を東西に二ヶ所設定して行いました。各調査区の概要は以下のとおりです。

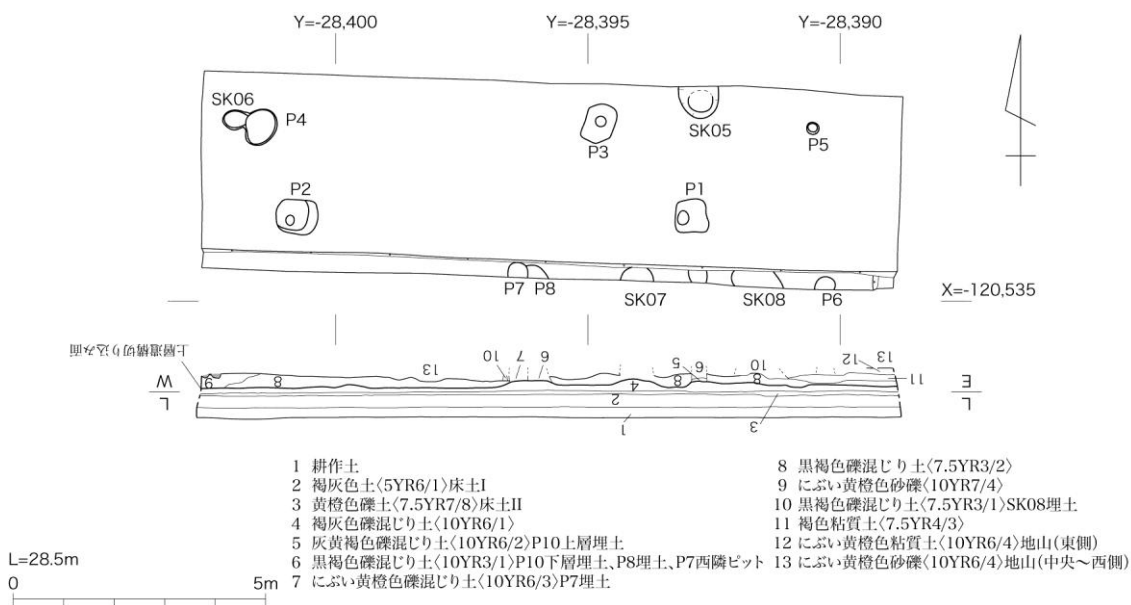
1 トレンチ

耕作土・床土を除去すると段丘礫層の地山面となっていました（断面図5～7層）。遺構は土坑が3つ（SK01～SK03）と西南に落ち込む遺構（SX04）が確認されました。これらの遺構の時期は歴史時代のものです。



2 トレンチ

耕作土・床土の下には4、8、9、11層の遺物包含層が堆積していました。8層以下の各層には遺構が切り込まれています。これらの層は整地土と考えられます。11層以下は地山層ですが、地山に切り込む遺構もあります。4層以下の遺物包含層は1 トレンチの SX04 から続く地形の傾斜を埋めた層である可能性が考えられます。



出土遺物には、3層（床土 II）から平安時代の無釉陶器が出土しています。4層からは飛鳥時代から奈良時代にかけての土器が出土しました。他に瓦、土錘、フイゴ羽口片、炉壁片なども出土しています。

縄文時代の遺物も出土しています。床土以下からはサヌカイト剥片や後期の土器片が出土していますが、量は多くありません。純粋な縄文時代遺物包含層はありませんでした。

遺物から推測される遺構の時期は、8層に切り込む SK05、SK06、P1～P6は奈良時代と考えられます。この中でP1～P3は掘立柱建物としてまとまる可能性があります。

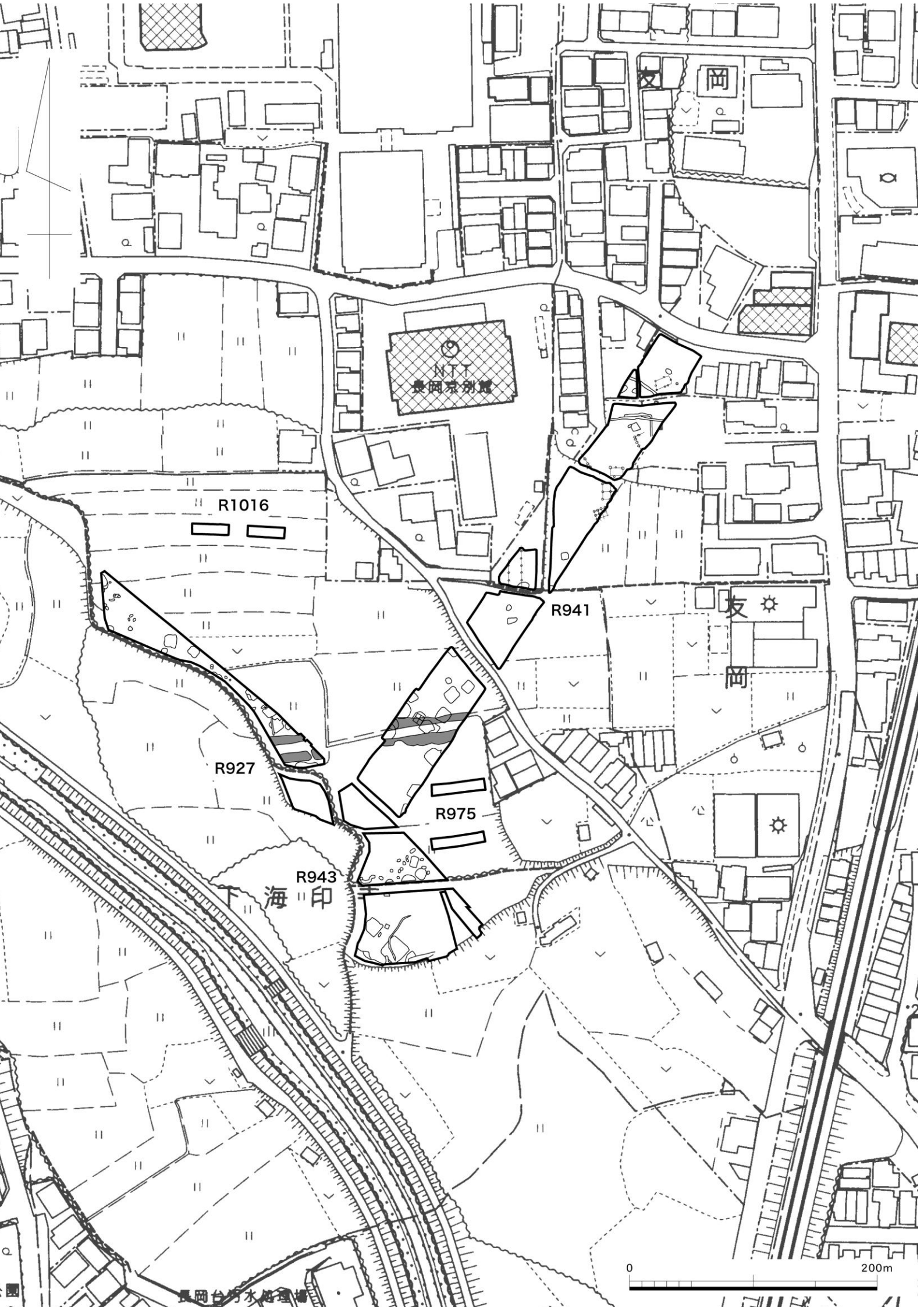
断ち割り地山面から検出されている SK07、SK08、P6～P8は奈良時代ないし奈良時代以前（飛鳥時代）の時期と考えられます。

調査はまだ途中ですが、今のところ縄文時代の遺構は見つかっていません。

まとめ

今回の調査区で判明したことは次の3点です。

- ① 現在調査区の北東に段丘崖と考えられている段差がありますが、1トレンチの状況から、本来の段丘崖は1トレンチ西端の SX04 付近であったと考えられます。
- ② 調査区では飛鳥時代から奈良時代と考えられる遺構が整地作業を繰り返しながら営まれていました。この遺構存続時期は近接する鞆岡廃寺と時期が重なることから同寺との関係が考えられます。
- ③ 調査区の南および東には縄文時代中期、後期の集落が確認されていますが、これらの集落範囲が当地まで広がっていたかどうかは今回の調査では結論をだすことができませんでした。



NIT
長岡茶列館

R1016

R941

R927

R975

R943

下海印

友

岡

0 200m

長岡台町水地調査